

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1.測定結果：

(データ集約:11/19)
(単位：Bq/kg・乾土)

| 採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離 | 採取日 | Pu-238 | Pu-239+240 |
|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| グラウンド(西北西約500m) ¹ | 2015年7月13日 | $(2.2 \pm 0.59) \times 10^{-2}$ | N.D. [1.5×10^{-2}] |
| 野鳥の森(西約500m) ¹ | | $(2.7 \pm 0.58) \times 10^{-2}$ | $(1.3 \pm 0.13) \times 10^{-1}$ |
| 産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹ | 採取中止 ³ | - | - |
| 国内の土壤(昭和53年～平成20年) ² | | N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$ | N.D. ~ 4.5 |

[]内は検出限界値を示す

- 1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
- 2：出典「環境放射線データベース」(文部科学省)
- 3：フェーシングにより採取出来ず。

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

2015年7月13日に検出されたPu-238とPu-239+240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

以上